

うまい病院便!

令和7年8月1日号広報ちはら台へ掲載しました

第58号

軽く見てはいけない「虫さされ」の話

千葉ろうさい病院 集中ケア認定看護師 大山 知恵子

夏は海や山に出かけたり、帰省したりと、何かと出かける機会が多く、出かけた先で虫にさされた経験は誰にでもあると思います。この「虫さされ」が原因で重症感染症になることがあります。病原体に感染した虫にさされると、血液を吸われるときに虫の体内にあるウイルスが私たち人の体内に侵入し感染症を起こします。特に夏は蚊にさされることが多く、それよってかかる感染症の代表としてデング熱やマラリアなどがあり、海外の主に亜熱帯地域で多く流行します。しかし近年、デング熱の感染は日本でも報告があります。また、マダニを介した感染症にツツガムシ病、日本紅斑熱などがあります。これらに感染すると、高熱やだるさ、発疹などの症状が出現することがあります。そして、ごくまれに、肺炎や脳炎、敗血症など重症化する場合があります。マダニは山林や草むら、藪など自然豊かな場所に生息しており、体に付着後、暖かくて皮膚の柔らかい部分を探して移動しかみつきます。夏休みを利用して旅行を計画する人もいると思いますが、虫よけスプレーの活用や肌の露出を少なくするなどの工夫をして、「虫さされ」を予防しましょう。

もし、「虫さされ」の後に、高熱や身体のだるさなどの症状が出現したり、患部の腫れがひどい場合は迷わずには病院を受診しましょう。「たかが虫さされ、されど虫さされ」。虫さされを予防してレジャーを楽しみましょう。

